

厚生常任委員会資料

令和6年4月26日

病院局

目次

I	病院局幹部職員名簿	3
II	病院局の組織及び経営管理課の業務概要	4
III	各県立病院の概況	6
IV	「宮崎県病院事業経営計画2021（R6.3改定）」の概要	8
V	「令和6年度宮崎県立病院事業会計予算」の概要	9

I 病院局幹部職員名簿

(令和6年4月1日現在)

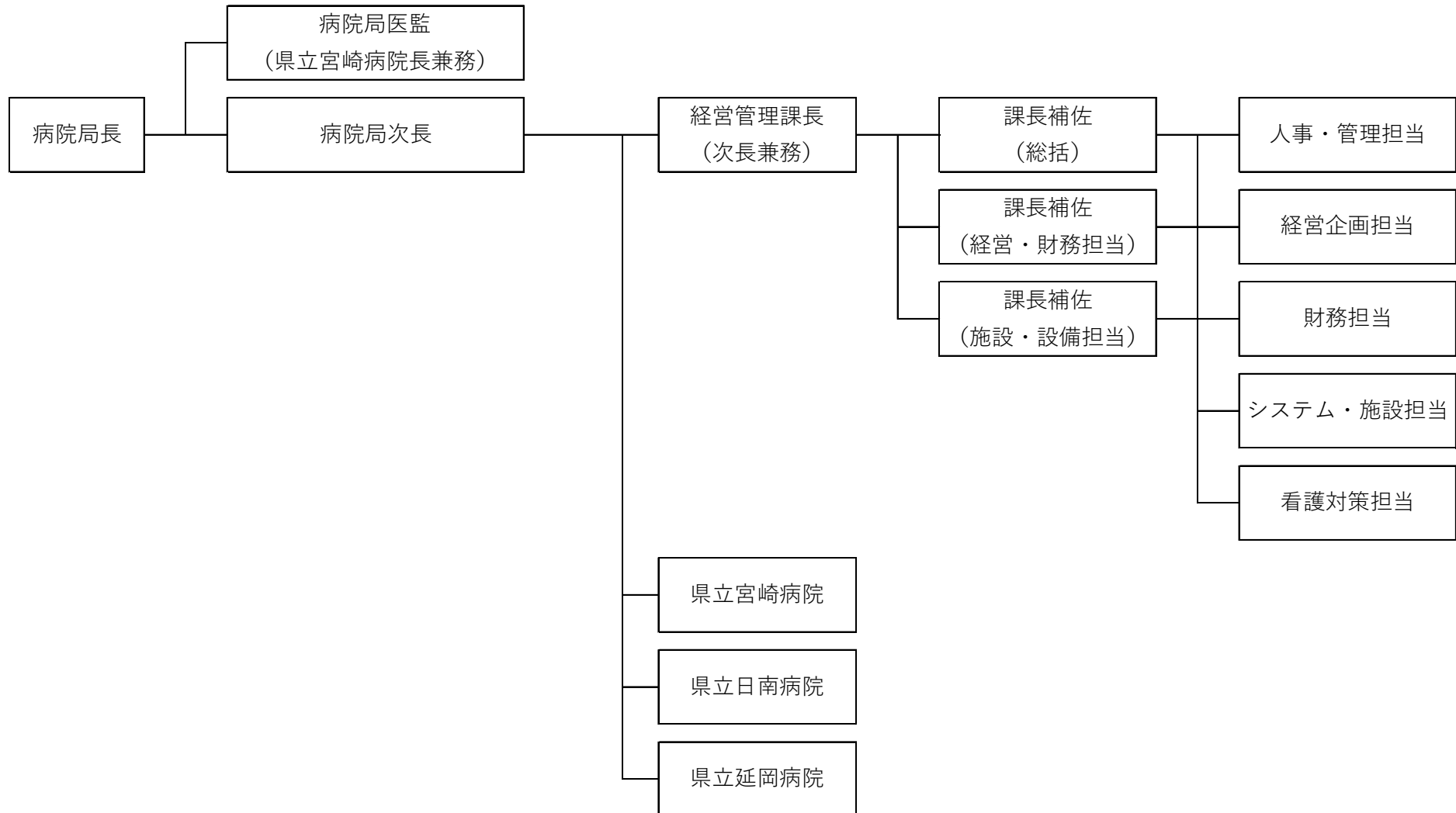
病院事業管理者 病院局長 よしむら ひさと
 吉村 久人
 病院局医監 しまもと とみひろ
 嶋本 富博
 病院局次長 こうづま かつあき
 高妻 克明

課名	課長名	課長補佐名
経営管理課	病院局次長兼経営管理課長 <small>こうづま かつあき</small> 高妻 克明	課長補佐（総括） <small>ひだか きよたか</small> 日高 清貴 課長補佐（経営・財務担当） <small>いまむら さちお</small> 今村 左千夫 課長補佐（施設・設備担当） <small>はらだ とおる</small> 原田 徹
病院名	病院長名	事務局長名
県立宮崎病院	病院局医監兼病院長 <small>しまもと とみひろ</small> 嶋本 富博	事務局長 <small>ささき しろう</small> 佐々木 史郎
県立日南病院	病院長 <small>はら せいいちろう</small> 原 誠一郎	事務局長 <small>ゆじ まさひと</small> 湯地 正仁
県立延岡病院	病院長 <small>やまぐち てつろう</small> 山口 哲朗	事務局長 <small>よしだ ひでき</small> 吉田 秀樹

県議会担当 経営管理課 課長補佐（経営・財務担当） いまむら さちお
 今村 左千夫

II 病院局の組織及び経営管理課の業務概要

1 組織



Ⅱ 病院局の組織及び経営管理課の業務概要

2 業務概要（経営管理課）

- ・ 病院事業の総合的な企画及び調整に関すること。
- ・ 県立病院事業会計の予算経理に関すること。
- ・ 病院の運営指導に関すること。
- ・ 組織及び職員の定数に関すること。
- ・ 職員の任免、給与、勤務時間その他の勤務条件、懲戒、研修及びその他の身分取扱に関すること。
- ・ 労働協約その他労働関係に関すること。
- ・ 病院の施設整備に関すること。

Ⅲ 各県立病院の概況

(令和6年4月1日現在)

		宮崎病院	日南病院	延岡病院
1	開設年月日	大正10年10月	昭和23年9月	昭和23年9月
2	改築年月日	令和4年1月	平成10年2月	平成9年11月
3	病床数			
	稼働	493床	281床	388床
	許可	502床	281床	410床
4	診療科目	内科、脳神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、精神科、臨床検査科、病理診断科		
	共通科目			
	上記以外	小児外科 心臓血管外科 救急科 呼吸器外科 内視鏡内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	心療内科 耳鼻咽喉科	心療内科 心臓血管外科 救急科 呼吸器外科 耳鼻咽喉科
	科目数	24科	20科	23科

III 各県立病院の概況

(令和6年4月1日現在)

	宮崎病院	日南病院	延岡病院
5 救急医療機能	第三次救急医療施設	第二次救急医療施設	第三次救急医療施設 第二次救急医療施設
6 災害医療機能	基幹災害拠点病院	地域災害拠点病院	地域災害拠点病院
7 職員数	740名	348名	567名
医師	107名	40名	67名
看護師・助産師	507名	240名	394名
コメディカル	106名	55名	93名
事務その他	20名	13名	13名

注：職員数は令和6年4月15日時点かつ再任用短時間勤務職員を含まない。

IV 「宮崎県病院事業経営計画2021（R6.3改定）」の概要

第1章

【計画改定の趣旨】「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を踏まえ、地域の医療機関との機能分化・連携強化等に重点的に取り組み、経営を強化する必要があることから、計画を改定する。

【計画期間】 令和3年度から令和9年度まで（7年間）

県立病院を取り巻く環境の変化等

第2章 取り巻く環境の変化

- 医療ニーズの変化
本格的な人口減少による疾病構造の変化と医療ニーズの変化への対応
- 地域医療構想の推進
県立病院が果たすべき役割・機能に応じた病床数の確保と医療提供体制の構築
- 働き方改革の推進
医師の働き方改革への対応や医療スタッフの働きやすい環境づくり
- 社会保障関係費の抑制等
診療報酬のマイナス改定や各種施設基準・加算等の厳格化、エネルギー価格上昇及び物価高騰
- 医療分野におけるデジタル化の進展
AI技術等の活用による医療サービスの最適化・効率化

第3章 県立病院が果たすべき役割と機能

- 経営の基本的な考え
「公共の福祉の増進」と「健全な経営」の実現
- 新ガイドラインに基づく要請
・持続可能な地域医療提供体制を確保するため、限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するという視点を重視し、経営を強化することを要請
・地域医療構想等を踏まえ、個々の公立病院が地域において果たすべき役割・機能を改めて見直し、明確化・最適化することが重要
- 県医療計画等での位置づけ
・拠点病院、急性期を担う中核的病院としての役割・機能
・新興感染症等の拡大時に対する平時からの備え

第4章 県立病院の使命

全県レベルあるいは地域の中核病院として、経営の健全性を維持しながら、県民に高度で良質な医療を安定的に提供する。

- 1 多数の診療科の連携による総合性を生かした高度・急性期医療の提供
- 2 社会的要請により政策的に対応する必要がある医療の提供
- 3 中核病院として地域医療機関等との連携強化による医療の提供
- 4 安定した経営基盤の確立による持続可能な医療の提供

第5章 改定計画の基本目標と具体的取組

第6章 医療面の基本目標

県立病院へのニーズに対応した役割・機能の最適化と連携の強化

1 質の高い医療の提供とそれを支えるスタッフの確保・充実

- (1) 質の高い医療の提供
 - 高度医療、急性期医療機能の充実・強化
- (2) 医療スタッフの確保・育成
 - 各大学と連携した医師確保、研修等による育成
 - 「宮崎県キャリア形成プログラム」対象医療機関としての医師育成
- (3) 働き方改革の推進と誰もが働きやすい環境整備
 - システム導入による勤務実態の把握
 - 勤務時間の見直し、医師事務作業補助者の活用、職種間のタスクシフト/シェア等の推進

2 救急医療や災害医療等の安定的かつ持続的な提供

- (1) 救急医療提供体制の強化
 - 第三次・第二次救急医療施設としての役割・機能の発揮
- (2) 大規模災害時における医療提供体制の強化
 - BCP（業務継続計画）による訓練や災害派遣医療チーム等の育成等による体制強化
- (3) 感染症への対応と通常医療との両立
 - 必要病床確保、感染制御チーム体制の充実、県等との連携強化
 - 感染拡大に備えた平時からの専門人材の確保・育成、装備

3 安心・安全な医療の提供と患者サービスの向上

- (1) 安心・安全な医療提供と患者・家族への支援機能の充実
 - 患者支援センター等による患者サポート体制の強化
- (2) 病院機能のデジタル化による患者サービスと医療機能の向上
 - 電子処方箋や電子カルテ情報の標準化等を推進
 - サイバー攻撃等に対する適切なセキュリティ対策
- (3) 医療事故防止等の医療安全対策の推進
 - 3県立病院連携による医療安全レベルの向上

4 地域の医療機関との機能分化・連携強化と地域医療充実への貢献

- (1) 地域の医療機関等との機能分化・連携強化
 - 各県立病院の役割や機能の見直し、地域医療機関との役割分担と連携強化
 - 病院の役割・機能見直しにおける関係自治体等と連携した住民に対する丁寧な説明を実施
- (2) 地域医療の充実への貢献
 - 大学等との連携による臨床研修医受入や研修の場の提供
 - 医師不足の地域への診療応援体制の構築

第8章 各病院の主な取組

宮崎病院

- 「断らない救急」の実践
- 集学的がん治療や「ゲイジ」等による高度な医療の提供
- 地域に貢献できる医療スタッフの確保・育成
- 病院再整備を踏まえた収支の改善

延岡病院

- 化学療法センター、心臓脳血管センター「ハイリッド」手術室等による機能充実
- ドクターカーの効果的な運用
- 地域の医療機関等との連携強化
- 原価計算システムによる経営の見える化の推進

日南病院

- 地元医療機関との機能分化・連携強化
- 地域医療ニーズに対応した救急医療体制の構築
- 脳・心疾患等の急性期医療の提供
- 病院機能の見直し、病棟再編による効率化
- 経営健全化に向けた取組の強化

第7章 経営面の基本目標

経営健全化に向けた取組の強化（病院事業全体での資金収支の改善）

1 業収支の改善

- (1) 診療報酬制度への適切な対応による収益の確保
 - 医療機関と連携した新規患者の増加、新たな施設基準の取得
 - 外部コンサルを活用した経営分析等の実施
- (2) 3病院一体となった費用節減
 - 医薬品等の共同購入、新たな在庫管理（SPD方式）の活用
- (3) 経営の見える化による安定的な事業運営の推進
 - 経営指標の設定、職員の経営参画意識の醸成
 - 原価計算の手法による収支分析、経営の見える化の推進

2 適切な設備投資・更新

- (1) 建物・施設等の整備
 - 後年度負担に配慮した計画的な改修の実施、費用対効果を踏まえた検討
- (2) 医療機器等の購入・更新
 - 外部コンサルを活用した中長期的な更新計画の策定
 - 計画的な購入・更新、高額医療機器の共同利用の検討
- (3) デジタル化関連の投資
 - 3病院間での共通化、標準化による費用節減

3 一般会計繰入金の確保

- 政策医療・不採算医療に要する経費について、総務省の繰入金基準に則した適正な繰入金を確保

【収支計画 R9（計画最終年度）→R12（黒字化目標年度）】

■病院事業全体

収益的収支	R9	R12
病院事業収益	41,346	41,932
医療収益	36,221	37,131
医療外収益	5,125	4,802
特別利益	0	0
病院事業費用	42,808	41,874
医療費用	40,576	39,625
医療外費用	2,231	2,250
特別損失	0	0
経常利益	-1,461	58
経常収支	-1,461	58
経常収支比率	96.6%	100.1%
修正医療収支	-5,006	-3,145
修正医療収支比率	87.7%	92.1%
償却前損益	1,509	2,343

経常黒字化への道筋

- 1 診療報酬制度への的確な対応、地域との連携強化等による収益確保
- 2 政策医療等を担う上で必要な繰入金の確保
- 3 費用の節減、計画的な設備投資等による収支改善
- 4 地域の医療需要等に対応した病院機能の見直し
- 5 病院事業全体で、令和12年度の経常収支黒字化を目指す

V 「令和6年度宮崎県立病院事業会計予算」の概要

1 予算の概要

診療報酬の減額改定や物価高騰に加え、労務単価の上昇など、引き続き厳しい経営環境が見込まれる中、「宮崎県病院事業経営計画2021」（令和6年3月改定）に基づき、経営改善の取組を加速させ、収益確保及び費用節減を図るとともに、救急医療や高度・急性期医療など県民に高度で良質な医療を安定的に提供するための予算としている。

2 予算のポイント

(1) 主な新規・重点事業

- ・ 電子カルテシステム整備事業 4,665,846千円
- ・ ⑨県立宮崎病院がん医療機能高度化推進事業 78,556千円

(2) 一般会計借入金 5,000,000千円

3 業務の予定量

(1) 病床数 1,193床

(2) 年間患者数 (単位：人)

区 分	令和6年度当初予算	
	年間患者数	一日平均患者数
入 院	336,813	923
外 来	379,855	1,563
合 計	716,668	2,486

V 「令和6年度宮崎県立病院事業会計予算」の概要

4 収益的収支

(単位：千円)

区 分	令和6年度当初予算	令和5年度当初予算	増 減
病院事業収益	42,599,038	42,492,671	106,367
医業収益	36,610,988	33,928,377	2,682,611
入院収益	25,620,114	24,219,542	1,400,572
外来収益	9,927,467	8,550,164	1,377,303
一般会計負担金	650,815	746,184	△95,369
その他	412,592	412,487	105
医業外収益	5,988,050	8,392,362	△2,404,312
一般会計負担金	3,711,043	6,152,626	△2,441,583
長期前受金戻入	2,064,832	2,105,658	△40,826
その他	212,175	134,078	78,097
特別利益	0	171,932	△171,932
病院事業費用	44,215,573	44,957,010	△741,437
医業費用	43,602,451	42,407,943	1,194,508
給与費	19,530,191	18,710,172	820,019
材料費	12,333,603	12,017,157	316,446
経費	7,146,418	6,832,856	313,562
減価償却費	4,235,362	4,560,211	△324,849
その他	356,877	287,547	69,330
医業外費用	610,122	555,580	54,542
特別損失	0	1,990,487	△1,990,487
予備費	3,000	3,000	0
収支差	△1,616,535	△2,464,339	847,804
償却前損益	974,614	2,152,965	△1,178,351

V 「令和6年度宮崎県立病院事業会計予算」の概要

5 資本的収支

(単位：千円)

区 分	令和6年度当初予算	令和5年度当初予算	増 減
資本的収入	15,405,268	7,616,090	7,789,178
企業債	7,764,500	4,949,600	2,814,900
一般会計負担金	2,640,768	2,666,490	△25,722
一般会計借入金	5,000,000	0	5,000,000
資本的支出	12,548,460	10,160,695	2,387,765
建設改良費	8,096,318	5,428,695	2,667,623
改築整備費	725,211	2,152,865	△1,427,654
改良工事費	1,079,913	1,056,890	23,023
資産購入費	6,157,577	2,008,909	4,148,668
リース資産購入費	133,617	210,031	△76,414
企業債償還金	4,415,142	4,695,000	△279,858
その他	37,000	37,000	0
収支差	2,856,808	△2,544,605	5,401,413

V 「令和6年度宮崎県立病院事業会計予算」の概要

6 病院別収益的収支

(単位：百万円)

区 分	宮崎病院			延岡病院			日南病院		
	令和6年度 当初予算	令和5年度 当初予算	増減	令和6年度 当初予算	令和5年度 当初予算	増減	令和6年度 当初予算	令和5年度 当初予算	増減
病院事業収益	20,657	19,964	693	15,101	14,855	246	6,841	7,673	△832
うち入院収益	11,645	10,653	992	9,765	9,160	605	4,210	4,406	△196
うち外来収益	5,409	4,300	1,109	3,181	2,834	347	1,338	1,416	△78
うち負担金	2,307	3,511	△1,204	1,318	2,056	△738	737	1,332	△595
病院事業費用	21,530	22,816	△1,286	14,887	14,379	508	7,798	7,762	36
うち給与費	9,165	8,696	469	6,428	6,183	245	3,937	3,831	106
うち材料費	6,194	5,863	331	4,671	4,573	98	1,468	1,581	△113
うち経費	3,093	2,981	112	2,474	2,302	172	1,580	1,550	30
収支差	△874	△2,852	1,978	214	476	△262	△957	△88	△869
償却前損益	961	1,008	△47	673	940	△267	△659	204	△863

※ 四捨五入の関係で、病院事業収益と病院事業費用の差と収支差が一致しないことがある。

V 「令和6年度宮崎県立病院事業会計予算」の概要

7 主な新規・重点事業

電子カルテシステム整備事業

経営管理課 4,665,846千円
【財源:企業債、自主財源】

事業の目的

病院情報システムを最新のパッケージシステムに更新することにより、引き続き効率的な質の高い医療サービスの提供を図る。

事業の概要

(1) 事業内容

電子カルテシステムを中心とした病院情報システムのハードウェア及びソフトウェアの更新

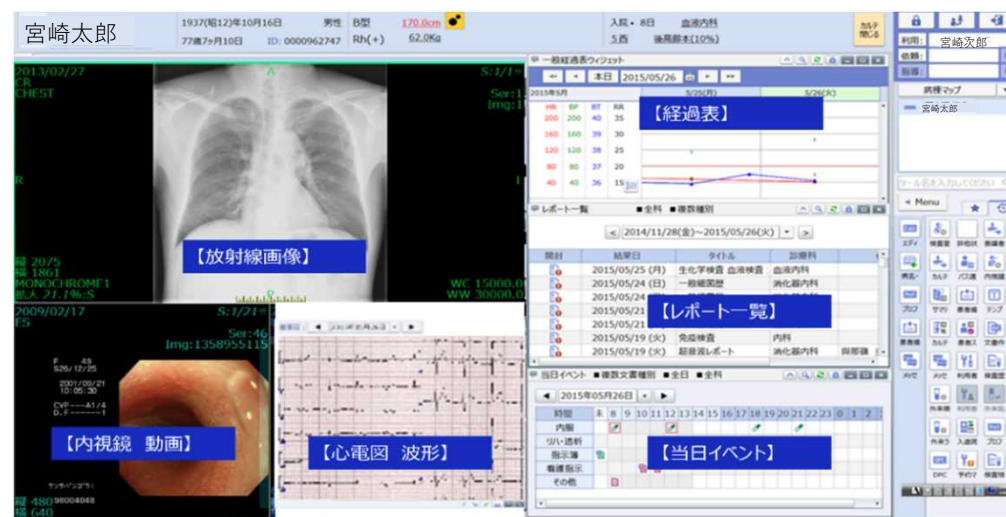
【事業スケジュール】

令和5年度 発注、契約（選定委員会）

令和6年度 システム構築、
令和7年1月、2月、3月
に分けて本稼働予定

(2) 事業効果

老朽化したサーバ等の更新に合わせてシステムを更新することにより、医療情報システムを安定的に稼働させ、引き続き効率的な質の高い医療サービスを提供することができる。



事業の期間

令和5年度～令和6年度

新 県立宮崎病院がん医療機能高度化推進事業

経営管理課 78,556千円
【財源: 補助金、企業債、自主財源】

事業の目的

本県のがん医療提供体制の充実を図るため、「地域がん診療連携拠点病院」として本県がん治療の中核的な役割を担う県立宮崎病院における診療機能を強化し、県域全体のがん医療機能の高度化を推進する。

事業の概要

(1) 事業内容

県立宮崎病院において、高度な放射線治療や、がんゲノム医療、手術支援ロボットの機能強化など、集学的がん治療体制の強化を図り、県内のがん患者に対して高度で良質な医療を提供する「県立宮崎病院がんセンター」を設置する。

- ① 高度な放射線治療の実施【IMRT（強度変調放射線治療）の導入】
- ② がんゲノム医療の実施【がんゲノム外来の新設】
- ③ 手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）の機能強化【手術精度の向上】



(2) 事業効果

本県がん治療の中核的な役割を担う県立宮崎病院における診療機能を強化することで、県域全体のがん医療機能の高度化を図り、県内のがん患者に対して高度で良質な医療を提供することができる。

事業の期間

令和6年度～令和7年度

V 「令和6年度宮崎県立病院事業会計予算」の概要

8 今後の収支計画と経営改善に向けた取組

収支計画シミュレーション

○令和6年度当初予算（一般会計借入金50億円、一般会計負担金（繰入金67.3億円、補助金2.8億円））

- ・純損益はR12に黒字化
- ・借入金は5年据え置いた後、R12から毎年2億円返済
- ・現金預金残高はプラスを維持
- ・資本はR6に債務超過になった後、R12の黒字転換後は累積赤字を徐々に解消
- ・資金不足額は発生しない

【事業収支】

(単位:百万円)

	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)	R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
純損益	-5	-653	1,344	132	-1,174	-4,934	-2,577	-2,454	-1,593	-1,461	-837	-269	58	216	296	386
償却前損益	664	316	2,240	1,339	2,101	-935	238	493	1,040	1,509	1,768	2,236	2,343	2,461	2,567	2,687
資本的収支	-1,483	-1,461	-1,776	-1,669	-2,100	-2,623	2,556	-2,264	-2,756	-2,020	-2,051	-1,943	-1,693	-1,943	-1,840	-2,264
資金収支	-820	-1,145	464	-331	2	-3,558	2,794	-1,771	-1,716	-511	-283	292	650	518	727	423

純損益黒字化

【内部留保資金】

損益勘定留保資金残高	1,417	350	938	604	590	-2,968	-5,174	-6,945	-8,661	-9,172	-9,455	-9,163	-8,313	-7,595	-6,668	-6,045
一般会計借入金残高	0	0	0	0	0	0	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	4,800	4,600	4,400	4,200
退職給付引当金残高	2,740	3,070	3,400	3,730	4,060	4,390	4,720	5,050	5,380	5,710	6,040	6,040	6,040	6,040	6,040	6,040
損益勘定留保資金等残高	4,157	3,420	4,339	4,335	4,650	1,422	4,546	3,106	1,720	1,538	1,585	1,878	2,527	3,045	3,772	4,195

借入金50億円

借入金返済開始 2億円/年

【現金預金残高】

現金預金残高	5,240	3,779	2,884	2,277	3,243	15	3,139	1,698	312	131	178	470	1,120	1,638	2,365	2,787
--------	-------	-------	-------	-------	-------	----	-------	-------	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------

【資本の部】

債務超過転落

資本合計	6,777	6,124	7,468	7,600	6,426	1,492	-1,085	-3,539	-5,131	-6,593	-7,430	-7,699	-7,641	-7,425	-7,130	-6,743
未処分利益剰余金合計	-6,077	-6,730	-5,386	-5,254	-6,428	-11,362	-13,939	-16,393	-17,985	-19,447	-20,284	-20,553	-20,495	-20,279	-19,983	-19,597

【資金不足比率】※10%以上で起債手続は許可制となり「資金不足等解消計画」策定。20%以上で「経営健全化計画」策定(議決事項)

資金不足額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資金不足比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般会計負担金】

収益的収支	2,937	3,055	6,904	6,351	6,490	3,950	4,362	3,986	3,882	3,742	3,669	3,628	3,604	3,584	3,576	3,553
繰入金	2,853	2,968	3,135	3,139	3,121	3,200	4,223	3,847	3,743	3,603	3,530	3,489	3,465	3,445	3,437	3,414
補助金	84	87	3,769	3,212	3,369	750	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139
資本的収支	1,690	1,639	2,352	2,375	2,131	2,546	2,641	2,443	2,829	2,014	1,847	1,746	1,277	1,341	1,454	1,715
繰入金	1,667	1,549	1,946	2,320	1,927	2,534	2,502	2,443	2,829	2,014	1,847	1,746	1,277	1,341	1,454	1,715
補助金	23	90	406	55	204	12	139	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,627	4,694	9,256	8,726	8,621	6,496	7,003	6,429	6,711	5,756	5,516	5,375	4,881	4,925	5,029	5,268
繰入金	4,520	4,517	5,081	5,459	5,048	5,734	6,725	6,290	6,572	5,617	5,377	5,235	4,742	4,786	4,891	5,129
補助金	107	177	4,175	3,267	3,573	762	278	139	139	139	139	139	139	139	139	139

収支計画シミュレーション(参考)

○ 現行の経営改善の取組を継続して実施した場合

- ・ 純損益はR5に過去最大の赤字を計上、その後も黒字化を図れず
- ・ 現金預金残高はR6にマイナスとなり、一時借入をしたまま年度をまたぐ
- ・ 資本はR6に債務超過になった後、赤字幅を拡大
- ・ 資金不足額がR6に発生
- ・ 資金不足比率がR7に10%超で起債手続は許可制へ移行、R9に20%超で「経営健全化計画」策定（議決事項）

《事業収支》

(単位:百万円)

	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)	R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
純損益	-5	-653	1,344	132	-1,174	-5,103	-3,460	-3,276	-2,460	-2,429	-1,949	-1,432	-1,117	-1,009	-907	-795
償却前損益	664	316	2,240	1,339	2,101	-773	-846	-453	-35	370	505	958	1,085	1,218	1,334	1,469
資本的収支	-1,483	-1,461	-1,776	-1,669	-2,100	-2,623	-2,550	-2,302	-2,704	-2,033	-2,067	-1,970	-1,524	-1,879	-1,666	-2,100
資金収支	-820	-1,145	464	-331	2	-3,396	-3,396	-2,755	-2,738	-1,663	-1,562	-1,012	-439	-661	-332	-630

過去最大の赤字

《内部留保資金》

	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)	R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
損益勘定留保資金残高	1,417	350	938	604	590	-2,805	-6,201	-8,956	-11,695	-13,357	-14,919	-15,931	-16,370	-17,031	-17,363	-17,993
一般会計借入金残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付引当金残高	2,740	3,070	3,400	3,730	4,060	4,390	4,720	5,050	5,380	5,710	6,040	6,040	6,040	6,040	6,040	6,040
損益勘定留保資金等残高	4,157	3,420	4,339	4,335	4,650	1,585	-1,481	-3,906	-6,314	-7,647	-8,879	-9,891	-10,330	-10,991	-11,323	-11,953

内部留保資金枯渇

資金収支が急速悪化

《現金預金残高》

	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)	R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
現金預金残高	5,240	3,779	2,884	2,277	3,243	178	-2,888	-5,313	-7,722	-9,055	-10,286	-11,298	-11,738	-12,398	-12,730	-13,360

現金預金マイナス

退職給付引当金枯渇

《資本の部》

	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)	R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
資本合計	6,777	6,124	7,468	7,600	6,426	1,323	-2,137	-5,413	-7,873	-10,302	-12,251	-13,683	-14,801	-15,810	-16,718	-17,512
未処分利益剰余金合計	-6,077	-6,730	-5,386	-5,254	-6,428	-11,531	-14,991	-18,267	-20,727	-23,155	-25,105	-26,537	-27,655	-28,664	-29,571	-30,366

債務超過転落

《資金不足比率》※10%以上で起債手続は許可制となり「資金不足等解消計画」策定。20%以上で「経営健全化計画」策定（議決事項）

	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)	R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
資金不足額	0	0	0	0	0	0	1,214	3,969	6,707	8,370	9,932	10,943	11,383	12,044	12,376	13,006
資金不足比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	11.6%	19.2%	23.4%	27.7%	30.4%	31.5%	33.2%	34.0%	35.6%

《一般会計繰出金》

	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)	R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (見込)	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
収益的収支	2,937	3,055	6,904	6,351	6,490	3,950	3,459	3,430	3,407	3,380	3,361	3,348	3,334	3,321	3,325	3,310
繰入金	2,853	2,968	3,135	3,139	3,121	3,200	3,320	3,291	3,268	3,241	3,222	3,209	3,195	3,182	3,186	3,171
補助金	84	87	3,769	3,212	3,369	750	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139
資本的収支	1,690	1,639	2,352	2,375	2,131	2,546	2,407	2,443	2,832	2,021	1,859	1,768	1,304	1,413	1,477	1,748
繰入金	1,667	1,549	1,946	2,320	1,927	2,534	2,407	2,443	2,832	2,021	1,859	1,768	1,304	1,413	1,477	1,748
補助金	23	90	406	55	204	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,627	4,694	9,256	8,726	8,621	6,496	5,866	5,872	6,238	5,401	5,220	5,116	4,638	4,734	4,802	5,057
繰入金	4,520	4,517	5,081	5,459	5,048	5,734	5,727	5,733	6,099	5,262	5,081	4,977	4,499	4,595	4,663	4,918
補助金	107	177	4,175	3,267	3,573	762	139	139	139	139	139	139	139	139	139	139

資金不足額発生

10%超過

20%超過

県立病院の経営改善に向けた取組

【 】は令和5年度と比較した令和12年度における取組効果の見込額を記載

1 収益の確保

- 外部コンサルタントを活用した診療報酬制度（DPC制度）への適切な対応
⇒新たな施設基準の取得やDPC係数の向上、クリニカルパスの見直しによる在院日数の短縮 等
- 地域の医療機関との連携強化による紹介患者の増加、逆紹介による急性期病床の効率的な運用

【入院：24.6億円 増収、外来：6.4億円 増収】

2 費用の節減・見直し

- 医薬品等の共同購入や専門家を活用した価格交渉
- 宮崎大学と連携したSPD（物流管理業務）活用による診療材料費の節減
- 医療機器等の中長期的な更新計画の策定による高額な保守・修繕費の節減
- 原価計算の活用による、診療科別・疾患別の収支分析を踏まえた費用の見直し
- 不要財産（未活用資産等）の処分 等

【2億円 節減】

【2.3億円 節減】

【4,500万円 節減】

3 各病院の取組

(1) 宮崎病院

- **がん医療機能の高度化**
⇒ IMRTの実施やがんゲノム医療の導入等、「宮崎病院がんセンター」設置を見据えた機能強化 【1.3億円 増収】
- **高度な最先端医療の提供**
⇒ ガン手術の機能強化、対象診療科の拡大

(2) 延岡病院

- **ハイブリッド手術室の運用**
⇒ 循環器・脳血管疾患へ対応する心臓脳血管センターの機能強化 【2.6億円 増収】
- **外来化学療法提供体制の充実**
⇒ 外来化学療法室の拡充によるがん患者の受入体制強化 【2,300万円 増収】

(3) 日南病院

- **病院機能最適化、病棟再編**
⇒ 病床稼働率の向上と経営の効率化 【2.7億円 節減】
- **救急体制の強化**
⇒ 2次救急に必要な診療機能の検討・整備 【3,100万円 増収】
- **公立病院等との機能分化**
⇒ 急性期・回復期における役割分担 【1,800万円 増収】